



INNOVATOR'S GARAGE

Garage Nagoya Topics

ナゴヤ イノベーターズ ガレージ(愛称:ガレージ ナゴヤ)のスタッフが、ガレージ ナゴヤの活動やイベント、そこで活躍する人々を紹介するコーナーです。



Report 1

2019.11.18 Mon.

情報提供プログラム フューチャーコンパス



Report 2

2019.12.03 Tue.

(株)豊田自動織機主催イベント

Report 1 「中部圏イノベーション促進プログラム」第11回講演会

参加者:約80名

講演「未来洞察と経営 ～未来洞察の長期経営ビジョンの応用～」

【講師】(株)日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 未来デザインラボ

ディレクター兼プリンシパル 時吉 康範 氏

プロフィール/2000年(株)日本総合研究所に入社し、技術価値創造戦略、インド事業創造、グローバルマネジメントのディレクターを歴任。2015年未来デザインラボを創設し、現職。



【講演要旨】

社会変化のスピードはますます速く、その行く先は過去の延長線上では予測できないものになっている。多くの企業が策定する中期経営計画は、20～30年先の未来のことを考えた長期経営ビジョンをもとに、整合する施策へと落とし込んだ行動計画であるが、これまでの中期経営計画は不確実性・非連続性の高い未来を見据えることができていたのだろうか。特定分野のプロフェッショナルになるほど、その常識の範囲内で物事を捉えようとして、将来を見誤りやすい。

「未来洞察」は、自分が意識さえしない程度の些細な社

会動向や異分野のニュースなどから、想定外の変化の兆しを捉えることができるイノベーション・ツールである。強制的にアイデアを発想させる方法を用いて、現在の「あたりまえ」に捉われない自社ならではの未来観を創出し、独自の挑戦や変革へつなげることができる。

長期経営ビジョン策定の役割は、社長と現場が半分ずつ担う。経営トップに経営力が求められることはもちろんだが、トップが語った夢を具現化するには、未来洞察を援用するなどして現場が柔軟に未来像を捉え、変わりゆく価値観に対応する準備ができていなければならない。

Report 2 リーガルイノベーションフォーラム

参加者:約60名

(株)豊田自動織機は、AI・IoTなど技術の急速な進展やシェアリングビジネスの普及など、従来の法規制が想定していない変化が起こる昨今の環境の中で、企業の法務とはどうあるべきかを問うため、専門家2名を講師に迎え「リーガルイノベーションフォーラム」を開催した。

講演1「法とイノベーション」

【講師】三浦法律事務所 弁護士 尾西 祥平 氏

プロフィール/2012年弁護士登録。ヤフー(株)の企業内弁護士として、EC、メディア、金融などの各事業に法務担当として関与したほか、ロビイング、知的財産権、訴訟等の業務に従事。その後、佐藤総合法律事務所、M&A、コーポレートガバナンス、キャピタルマーケット、危機管理などを扱う。2019年30名超の弁護士とともに三浦法律事務所を設立。現在、上場企業からスタートアップまで新規事業の創出にリーガルアドバイザーとして幅広く関与している。



【講演要旨】

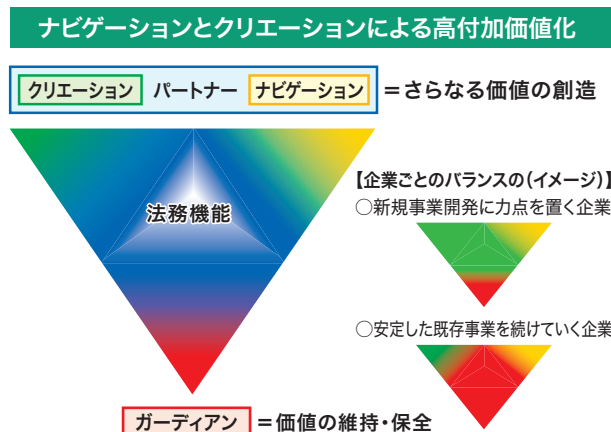
1. イノベーションにおける法務部門の役割

イノベーションとは、固定化された既存の価値観からの解放であるため、多くの場合、法律的な問題（グレーゾーン）が出てくる。それに立ち向かう法律分野でのサポートが法務部門の担うべき役割である。

イノベーションが実現されるためには、社会に受容される必要があるが、企業の中で最も常識力を持っている法務部門が「プロセスとしてのコンプライアンス」を保証しなければ、大きな事故につながる恐れがあり、法務部門の役割はますます重要性を増してきている。

2. リーガルテックの浸透による法務機能の変化

リーガルテックは、一般的に業務の効率化としてクローズアップされることが多いが、むしろ業務のクオリティ向上につなげていくことが重要である。企業がより大きな価値を創造していくために、法務部門には、従来の「ガーディアン」機能に加え、枠を広げる「クリエイション」、



出所：経済産業省「法務機能実装の方向性のストーリー」3頁より作成

枠内での価値の最大化を図る「ナビゲーション」を担うパートナー機能が求められてくる。

イノベーションの推進を担うことができるような法務人材を育成していくためには、社内にこもることなく外に出ていき、さまざまな人と意見交換し、視座を高めることが重要である。

講演2「リーガルテックの全体像とAI時代の法務」

【講師】GVA TECH(株) 代表取締役 山本 俊 氏

プロフィール／2012年スタートアップ支援を中心としたGVA法律事務所を設立。創業時のマネーフォワードやアカツキなどを顧問弁護士として支援。2017年自らもリーガルテックのスタートアップであるGVA TECH(株)を創業。AI契約サービス「AI-CON」をはじめとしたリーガルテックサービス開発の指揮を執る。



【講演要旨】

1. 日本の法務部門の問題点

企業が直面するリーガルリスクが複雑化・多様化する中で「経営」と「法務」が一体となった戦略的経営の実現のため、法務部門には、ビジネスの視点にもとづいたアドバイスや提案などの「パートナー機能」が求められている。しかし、日本の法務部門は、日常的に発生する定型業務に追われ、ビジネスに深く入り込むことが難しいため、ビジネスが法務面を無視して進められてしまい、

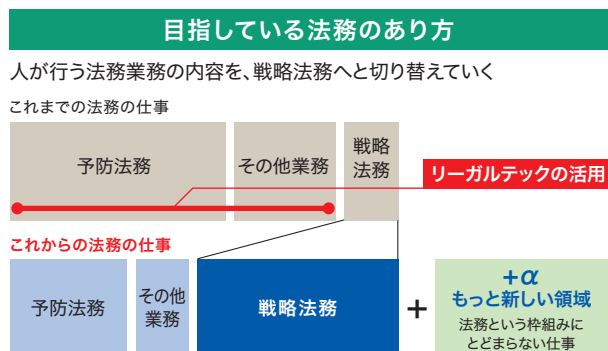
案件が進んでからストップをかける形で関与することが多くなるなど、「パートナー機能」を十分に果たせているとは言いがたい状況である。

2. これからの法務のあり方

法務部門が持つ「知見が散在している」「業務が属人化している」「クオリティがばらつく」「業務の増加に人員の増加が追い付かない」などの課題に、AIなどを用いたリーガルテックの活用で解決し、企画などの上流工程から、経営・事業戦略に法的知見を生かすかたちで関わる戦略的な法務に取り組んでいく必要がある。

戦略的な法務を実現するには、次の3つのステップでの取り組みが有効である。

- (1) 法務の知見を、ルール整備などを通じて一つに集約
- (2) ビジネスを実行する事業部サイドに法務機能の一部を移管
- (3) 人でないといけない創造的・戦略的法務業務を実行



出所：山本氏の講演資料より作成

4月
開講

イノベーション人材育成プログラム

「ビヨンド ザ ボーダー」

意欲あふれる若者たちよ集まれ!

一次締切
迫る!

2/28
まで

ナゴヤ イノベーターズ ガレージでは、中部圏におけるイノベーションを活発化させるため、自らの力でイノベーションを実現する人材を育成するプログラム「ビヨンド ザ ボーダー」を開催しています。ビヨンド ザ ボーダーは、共通基盤技術の理解・深化、未来社会の構想、異分野融合による共創を通じて、自らの力で新たな価値の創造を推進し、ネットワークを広げていくプログラムです。

STEP 1 4回

シーズ(技術・ノウハウ)起点の
イノベーション創出手法の学習

STEP 2 3回

ニーズ(社会課題・困り事)起点
で未来構想をするための考え方
を取得

STEP 3 5回

異業種/異分野メンバーとの
共創を通じたビジネスプラン
作成の中でイノベーション
実現の道筋を学ぶ

第4クールは、2020年4月に開講し、9月まで全12回を予定しています。起業や新規事業開発など、イノベーションに関心のある方、まず第一歩を踏み出してみませんか?

プログラムの詳細は、<https://chuukeiren-innovation.com/program/beyond.php> をご覧ください。

問い合わせはこちら ▶

E-mail: beyond@garage-nagoya.or.jp TEL: 052-253-9758

担当: ナゴヤ イノベーターズ ガレージ 山下

ビヨンド ザ ボーダー 卒業生の近況をのぞいてみよう!

第1クール卒業生・ミクサブチーム(2018年12月終了)

会社員としてだけでなく自らキャリアを開発したい人と、異業種からのフレッシュな視点を求めている事業主をマッチングさせ、自分自身のキャリアにオーナーシップを持つことを支援するビジネスを立ち上げようと活動を続けています。現在は、ビジネスモデルのプロトタイプを構築し、道の駅やお寺を事業主として20名程の参加者を集めて実証実験中です。

今後のステップとして、2020年8月を目途に実証結果をフィードバックしたビジネスモデルを再構築し、2020年内に事業を立ち上げる計画で進めています。ビヨンド ザ ボーダーを通じて、ベンチャービジネス/キャピタル創業者と顔見知りになったことで、サポートを受けられるつながりができ、今もナゴヤ イノベーターズ ガレージを活用して活動しています。

第2クール卒業生(2019年9月終了)

自動車のムービングシェアをテーマに最優秀賞を受賞したCARugamoチームを含め、合計5つのビジネスプランが継続して取り組まれており、事業化に向けた活動に入っています。



道の駅の新しい顧客層開拓を目指し、子どもたちが収穫した野菜を自身で販売するプロジェクトを企画して開催



2019年10月からスタートした第3クールの受講生も、異業種の若手が刺激あいながら新たな価値の創出を目指して学び中です!